



STOP!! 消費者トラブル

生活環境課 (内線172)

点検などを口実にした訪問販売に注意しましょう



近くで工事をしていて、お宅の屋根が壊れているのが見えたので、無料で点検しますよ

このままでは雨漏りしてしまうので、すぐに工事した方がいいですね

浴室塗装の点検をさせていただきます。キャンペーンにつき無料で行います

見えない場所が湿気で腐り始めています。早急に工事に取りかからないと家全体が潰れてしまいますよ



被害を防ぐには…

- ・突然訪問してきた事業者が安易に点検させないようにしましょう。点検箇所をわざと壊して撮影し勧誘するなど、悪質なケースもみられます。
- ・点検後に修理を勧められてもその場で契約しないようにしましょう。別の専門家に確認を依頼したり、複数の事業者から見積もりを取ったりするなど、慎重に検討しましょう。
- ・家族や周囲の人は、不審な人物が来ていないか、見慣れない書面がないかなど、高齢者の様子に気を配りましょう。
- ・訪問販売による契約は、契約書面を受け取った日から8日間以内であればクーリング・オフができます。8日間を過ぎていても解約や取り消しができる場合もあります。

少しでも不安に思った時、トラブルに遭った時は消費者ホットライン「☎188」に相談



ようこそ手話の世界へ

これまでに紹介した手話写真の動画を見ることができます。



福祉課 (内線217)

手話検定試験

全国手話研修センターが行っている「全国手話検定試験」は、手話を学んでいる方のコミュニケーション能力を、レベルに合わせて5級から1級までの6段階で認定する試験です。5級から3級までは次の3つの実技試験があります。

- ①手話を読み取り解答する。
- ②テーマに基づいて、手話でスピーチする。
- ③②でスピーチした内容について、面接委員の手話での質問に手話で回答する。

3級は、日常の生活体験などを手話で会話できるレベルです。3級レベルの手話技術を持つ人が増えることは、手話を第一言語とするろう者の願いでもあります。なぜなら、手話で会話できる機会が増えるだけでなく、周りのろう者への理解が進むからです。検定試験は年に一度、夏に申し込み、秋に試験があります。手話を学んでいる方は、モチベーションアップのためにもぜひ挑戦してみませんか！

かんたん手話講座

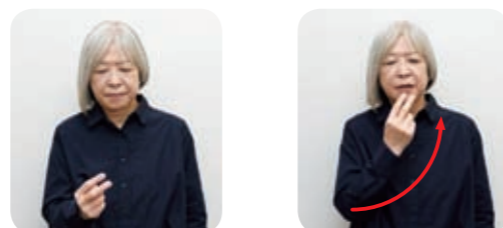
土岐市民の歌から「咲きかおる」

「咲く」



両手を合わせ、すばませた指を左右に開く

「かおる」



右手の人差し指と中指を鼻に近づける



小さな一歩が大きなアクションに

今日から始めよう SDGs

政策推進課 (内線517)

夏に考える エネルギーの使い方と作り方 エアコンの電力はどこから来るの？

毎日暑い日が続くため、エアコンや扇風機などの使用で電力消費量が増えているのではないのでしょうか。現在、日本のエネルギーの多くは化石燃料(石炭、天然ガスなど)を燃やして作られており、二酸化炭素など、地球温暖化の原因になる温室効果ガスが多く排出されています。また、化石燃料は枯渇する心配もあります。

世界に目を向けてみると、7億5,900万人*もの方が電力を使わず、料理や暖房に薪や炭を使っています。そうした地域では、燃料を燃やした際に発生する煙で肺炎を患い、多くの人が亡くなっています。

SDGsの目標7は「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」です。世界の全ての方が有害物質や二酸化炭素などを排出しないクリーンな再生可能エネルギー(太陽光、風力、水力、地熱、バイオマスなど)での発電)を使い続けられることを目指しています。目標13は「気候変動に具体的な対策を」です。地球温暖化などの気候変動を防ぐために再エネへの転換、省エネの取り組みが大切です。

*出典：国連広報センター ホームページ [SDGs報告 2021]



取り組んでみよう!

- ・ 不用な照明の消灯、エコ家電への買い替えなどで、消費電力を減らしましょう
- ・ 電力会社の再生可能エネルギーの構成割合を確認して電気の契約を見直してみましょう
- ・ ソーラーパネルの設置など太陽光エネルギーの活用を検討しましょう



ひとりひとり自分らしく 個性と個性が生み出す調和

ハーモニー

まちづくり推進課 (内線311)

女性と男性がともに 防災活動を進めるために

地域組織の副会長を男女1人ずつにするなど、責任ある立場を男女両方が担う

炊き出しやトイレ設営に男女両方が関わるなど、役割を性別で固定しない

1つの役割を複数人で担うなど、運営の中核メンバーの人数を増やす

婦人会やPTA、民生委員など、地域で既に活動している女性に意見を聞く

※内閣府男女共同参画局「女性が力を発揮するこれからの地域防災～ノウハウ・活動事例集～」より抜粋

9月1日は防災の日です。台風や豪雨による洪水、地震など、いつどんな災害に遭遇してもおかしくありません。防災対策は男性がやるもの、と無意識に決め付けていませんか。

東日本大震災では、避難所の運営が男性中心に行われ、避難生活では、衛生用品などの生活必需品が不足したり、プライバシーが十分に確保されず、本来ならなくてもいい我慢を強いられるたりしたそうです。また、当然のように女性が食事の準備や清掃などを割り振られるなど、性別で仕事の分担が決まったことに負担を感じたことなど

も報告されています。人には言いにくい女性特有の悩みや困りごとを抱えながらも、「非常時だから仕方がない」となりがちです。地域の避難所運営の多くは、町内会組織によって行われます。役員は男性を中心に構成される傾向があり、女性の要望や意見は伝わりづらい状況にあります。防災分野での女性の参画は不可欠です。男女双方の視点を反映させることによって、よりきめ細かな避難所運営をすることができ、普段から地域活動に関わりを持ち、男女共同参画の視点で防災について考えておくことが大切です。

防災から男女共同参画を考える